

## 導入事例

# 太田情報商科専門学校



## Cintiq 22HD導入により 個人で実現しにくい制作環境を提供 学生のスキルアップと授業の効率化を実現



太田情報商科専門学校は2014年、株式会社ワコムの液晶ペンタブレット「Cintiq 22HD」を41台導入。エンタテインメント分野において、専門性の高いスキルを備えクオリティの高い作品を制作できる人材の育成に活用しています。



Cintiq 22HD

### 導入前の課題

- アナログでの描画スキルを活かしたデジタルスキルの向上
- 作品制作の効率化
- 個人では実現しにくいワンランク上の制作環境の提供

### 導入後の効果

- 学生の作品制作に対するモチベーションと作品のクオリティの向上
- ペーパーレス化によるコストの削減
- 設備面での魅力が高まることにより、入学希望者獲得に寄与

### アナログの描画スキルをデジタルに活かすため「Intuos」から「Cintiq 22HD」に移行

群馬県太田市の太田情報商科専門学校は、「高い技術と豊かな心」をモットーに、実践的かつ高度な専門知識と技術を習得した、地域社会をリードできる人材を育成するための専門学校です。同校には情報系学科とビジネス系学科があり幅広い人材育成を行っています。なかでも情報系学科は、ゲームクリエイターやCGクリエイター、アニメーターなどエンタテインメント系の人材を多数輩出しています。その情報系学科で、2014年、株式会社ワコムの液晶ペンタブレット「Cintiq 22HD」を41台導入し、「ゲームグラフィックスコース」「デジタルアニメーションコース」「グラフィックデザイナーコース」などのカリキュラムで活用しています。

ゲーム、アニメーション分野を目指す学生が多い同校では、以前から、ワコムの板型ペンタブレット「Intuos」シリーズを使って授業を行っていましたが、「昨今は学生の板型ペンタブレットの所有率が上昇し、それにともなってアナログと同じ感覚で絵が描きやすいと評判の液晶ペンタブレットを使ってみたく

という要望が高まっていました」と話すのは、「Cintiq 22HD」の導入に尽力された教務部部長。そんな学生からの要望に加え、「授業に液晶ペンタブレットを導入すれば、彼らが慣れ親しんだアナログの描画スキルを、そのままデジタルに活かせるため、アナログとデジタル両方の技術向上を図ることができる」と考え、「Cintiq 22HD」の導入を提案しました。導入にともなう費用対効果について同校内では議論もありましたが、「学生のスキルアップと授業の効率化に大きな効果が得られるだけでなく、今後の入学希望者に対しても液晶ペンタブレットを授業で使えることは魅力のひとつとしてアピールできる」という結論を得て、導入に至りました。数ある「Cintiq」のラインアップから「Cintiq 22HD」を選んだのにも理由があり、「価格と省スペース性を考慮すると「Cintiq 13HD」という選択肢も考えられましたが、「Cintiq 13HD」は学生個人で購入することも可能です。専門性を高める場である専門学校は、個人では実現できないワンランク上の環境を提供することも役割のひとつ。より描画スペースが広い「Cintiq 22HD」のほうが、教育効果が高いと考え決定しました」と言います。

## 24時間「Cintiq 22HD」を使用可能 作品制作に対する意欲もスキルも向上

「Cintiq 22HD」は、2Dのイラストやコミック制作、Webデザイン制作、3DCGのテクスチャー制作などデザイン系の実習授業で使用されています。「学生の「Cintiq 22HD」に対する評価は想像以上に高く、制作に対する意欲の向上も顕著です。「Cintiq 22HD」を使えば、頭に浮かんだイメージを絵やデザインに反映しやすいため、学生たちの授業への集中力も増し、黙々と作業に打ち込んでいます」とのこと。実習教室は24時間学生に開放しており、「Cintiq 22HD」を放課後や休日に自由に使うことができるため、多くの学生は毎日の課題制作や就職活動用のポートフォリオ制作に使用しています。「いつでも「Cintiq 22HD」を使える環境があることは、学生に大変好評ですし、課題や作品制作に対するモチベーションが高まっていることを実感しています」と教務部科長は話します。

「Cintiq 22HD」の導入は、作品制作のスピードアップにも役立っていると教師側は感じています。「今までは下描きをすべて紙に鉛筆で描いてからスキャンしていました。このスキャンする工程を減らせましたし、ペーパーレスになることでコスト削減も実現できました。また、一度描いたものの修正なども、デジタルに移行することで格段にラクになりました。制作時間だけを見ても、トータルで半分以下になった印象ですね」。制作時間が短縮すれば、そのぶん作品のクオリティアップに時間を費やせませす。教師たちも、「Cintiq 22HD」を使うことで「板型ペ

ンタブレットで作業しているときよりも、自然と作品のクオリティも上がってきている」と高く評価しています。

## 高校生向け体験授業で新入生獲得にも寄与 今後は3D制作の授業でも活用予定

液晶ペンタブレットが使える環境を整えていることは、新たな学生の獲得にも寄与しています。「Cintiq 22HD」導入後の高校生向けオープンキャンパスでは「Cintiq 22HD」を使った体験授業を積極的に行い、高い人気を得ています。今後はデザイン系のカリキュラムだけでなく、様々な「Cintiq 22HD」の活用法を試していきたいと言います。「本校はデザイン系のクリエイターを目指す学生とともに、ゲームクリエイター志望者が大変多いのも特徴です。液晶ペンタブレットは、キャラクターの3Dモデリング制作によく使われている「ZBrush」のようなデジタル・スカルプティングソフトウェアとの相性も良いと聞きます。これからは3Dモデリング制作のスキルが必要になっていくと思いますので、3D分野の授業でも「Cintiq」を活用していけるように検証を続けているところですよ」と、今後の展望を語ります。情報系分野の学科に強い太田情報商科専門学校では、これまでデジタルに積極的に取り組み、専門性の高い分野での人材育成を推進してきました。今回「Cintiq 22HD」を導入することで、さらなるデジタル制作環境の充実を図ることができました。クリエイターとして活躍するためには、今後ますますデジタルでの制作スキルの向上が求められます。「Cintiq」の活用により、今後さらに高いスキルを備えた多くの人材を輩出していくことが期待されます。

